

7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・エクステンション等の諸政策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくこととしている。各キャンパスとも、設置学部の特徴、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点に基づき整備している。

- ①本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ②学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ③「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ④施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りを目指す。
- ⑤大学構成員の意見を聞きながら支援施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティの向上に努める。
- ⑥すべての施設のバリアフリー化を目指す等、身体障がい者にとっても快適な環境を整備する。
- ⑦教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

●教育研究・課外活動等の環境整備

学生総合支援及び教学支援体制を強化するため、学生部事務室内の改修を行う。また、合宿・宿泊施設拡充のため2008年度に引き続き龍谷会館の合宿室・寮室への改修を行うほか、深草図書館什器のリプレイス等も行い、教育研究・課外活動等の環境を整備する。

●施設・設備の更新

3年度事業の2年目として、経年劣化が著しい紫光館の空調設備を改修する。また、3号館の照明器具更新を含めた省エネルギー推進改修工事、8号館屋上防水及び外壁白華対策、深草南学舎の高圧受電盤の更新等を行い、安全で快適な環境を整備する。

●キャンパスアメニティの充実

大宮学舎を含めた京都団地の食堂・食堂周辺テラス席の増席、食堂・厨房機器の再整備等を行い、快適なキャンパスライフを提供するための環境を整備する。

●バリアフリー化の促進

紫朋館・紫陽館総合バリアフリー工事の2年目事業として、紫陽館のバリアフリー改修工事を行うなど、すべての施設のバリアフリー化を目指し、快適な環境を整備する。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

●教育研究・課外活動等の環境整備

2009年3月竣工の清風館（しょうふうかん）、南翼1階

演習室をはじめ、大宮学舎の教育研究・課外活動等の環境保全に引き続き努めるとともに、2011年春のオープンを目指し、龍谷ミュージアムの建設に取り組む。

●施設・設備の更新

経年劣化が著しい西翼新棟の空調設備改修をはじめ、安全で快適な環境を整備する。

●キャンパスアメニティの充実

深草学舎を含めた京都団地の食堂・食堂周辺テラス席の増席、食堂・厨房機器の再整備等を行い、快適なキャンパスライフを提供するための環境を整備する。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

●新棟（中・大規模教室棟）建設工事

瀬田学舎大駐車場に、中・大規模教室棟を建設する。建物内には、収容人数600名の教室1室、300名の教室2室、200名の教室3室を配備する。また、建設場所となった大駐車場の代替地として、瀬田学舎の各所に駐車場を設置し、駐車台数を増加する。

●省エネルギー対策工事

瀬田学舎2・3・4号館の照明器具を省エネルギー対応の器具に改修を行うとともに、全館の女性トイレにおいて節水対策工事を実施するなど、課外活動の施設環境の整備を図る。

●瀬田トレーニングセンターの移転

瀬田学舎体育館地下1階のトレーニングセンターを天井の高い1階の卓球場と入れ替え、空調・給水等の設備工事を実施する。

●瀬田学舎ゼミ教室におけるメディア機器などの整備

ゼミ教室等の小規模教室にメディア機器（PC接続可能なテレビ・BD対応のDVDプレーヤー・ビデオデッキ）を整備し、必修英語・演習・その他語学等の少人数科目の授業環境の充実を図る。また、瀬田学舎ゼミ教室12室の什器を、キャスター付の什器に仕様変更する。

4 その他の施設・設備・備品等の整備 （各学舎以外の施設）

2009年4月から、京都市上京区近衛町（京都御所の西側）に、「International Houseともいき」及びセミナーハウス「ともいき荘」を開館する。「International Houseともいき」は留学生寮として、セミナーハウス「ともいき荘」は、学生、卒業生及び保護者が集える総合研修施設として活用する。

<セミナーハウスともいき荘>

●施設の概要

セミナーハウス「ともいき荘」は、地上5階、地下1階からなり、研修室を7室（総定員243名）、宿泊室を15室（総定員80名）、さらに地下1階にシャワー室、1階にはラウンジ（交流スペース）等を備えている。

●利用者と利用目的

セミナーハウス「ともいき荘」の利用者は、本学学生、

卒業生、保護者及び教職員を主とし、ゼミナールや課外活動などの研修・短期合宿、卒業生または保護者の交流・短期宿泊、その他RECによる公開講座の開催や研究会の開催など、総合研修施設としての利用を想定している。

●周知・広報活動

多くの方々にセミナーハウス「ともいき荘」を活用してもらうため、周知・広報活動を積極的に行っていく。具体的には、龍谷大学Webに2009年4月開館を告知し、Web上に利用案内・申込書を掲載する。そしてリーフレット等の作成や広報「龍谷」「親和会報」「校友会報」も利用し、周知・広報活動に努める。

<International Houseともいき>

●施設の概要

International Houseともいきは、地上5階からなり、総室数28室（うちシングル20室、ツイン8室）、36名の収容が可能な留学生寮である。共用スペースには、自炊・洗面所、洗濯・物干し室、シャワー室(男・女)、トイレ(男・女)、フリースペースが完備されている。

●利用者と利用目的

International Houseともいきは、主に留学生別科生、交換留学生、1～2年次の留学生が使用する留学生寮である。短期の留学生を入居対象としているため、入居期間は1年間とする。これら留学生の学生生活アドバイザーとして、日本人学生チューターが3名常駐する。

●ロケーション及びアクセス

京都市のほぼ中心に位置し、御所、寺院や伝統的な京都の町家が多く残る地域にあり、京都駅を起点として、3キャンパスそれぞれへのアクセスが大変良く、留学生の住環境としては非常に良い環境である。マンガ文化に興味を持つ留学生には、「京都国際マンガミュージアム」も近くにある。

●国際交流推進

セミナーハウスともいき荘を活用し、留学生と一般学生との教育交流や、イベント交流など、キャンパスを超えた国際交流を推進する。

2 情報システム関係について

第4次長期計画事業の一つとして整備を進めている「ユビキタス教育環境整備事業」について継続的・発展的な展開を目指す。

2008年度後期から取り組んでいる「大学全体の情報化促進政策」としての5つのプログラム【①学生と大学との双方向コミュニケーションを活性化させるプログラム②新たな学びのスタイルを提供するプログラム③情報を扱う上での全学法令遵守プログラム④学生の今と卒業後の利便性を高めるプログラム⑤事務システムを安全効率的に再構築するプログラム】の具体化を図る。また情報化に関する第三者評価結果も加味し、これらを踏まえた全学的な総合情報化政策を提案することにより、学内の情報伝達手段を活性化し、学生への直接的なサービスレベルの向上を目指す。

あわせて、2009年度以降の新たな情報化にかかる中・長期財政計画(5年程度のローリングプラン)における基本方針を提案し、大学全体の情報化促進政策に対応する経費節減に努めた弾力的な予算計画をたてる。

1 基幹ネットワークの整備

●無線LANのサービスエリアを拡大

ユビキタス教育環境整備の継続的な取り組みとして、引き続き、無線LANのサービスエリアを拡大し、ネットワーク利用の促進と利便性の向上を図る。

●事務プリンタシステムのリプレイス

老朽化した事務プリンタシステムのリプレイスを実施し、事務作業の効率化を図る。

●テレビ会議システムのあり方を検討

現状の経年劣化したテレビ会議システムのあり方を検討すると同時に、2010年度以降の3学舎間でのテレビ会議システムの抜本的な見直しについて検討を行う。

●基幹ネットワークなどに関わる将来像の策定

基幹ネットワーク、学生・教員・事務メール、学部サーバ等の将来像を策定する。

2 情報教育環境の整備

●情報教育システムのリプレイス

全学的な情報教育システムのリプレイスを実施する。2009年度から3学舎統一した情報教育環境を提供すると同時に、今後求められる情報教育の効果や目的を達成できるような環境を構築する。また、大宮学舎清風館に新たに情報実習室とセルフラーニング室を設置し、他学舎同等以上の情報教育環境を整備する。

●マルチメディア教育環境の整備

多様なメディア機器を利用した効果的な授業の推進と継続的な教育基盤整備を図るためマルチメディア教育環境の整備を継続して行う。

・普通教室マルチメディア教育環境改善(2007～2010年度の4カ年事業)の3年目として普通教室の整備を実施する。

・ゼミ室マルチメディア教育環境整備として、3学舎48室で試行的にプロジェクター及びスクリーンを設置する

等、最新のマルチメディア機器を導入する。また、利用状況等をみて2010年度以降の整備を検討する。

- 情報教育リテラシー支援プログラム

教育改革への対応として、全学共通の情報教育リテラシー支援プログラムを継続して実施し、学生の情報教育リテラシー理解度を確認しつつ、その向上に向けた円滑な授業運営を支援する。

3 事務システムの整備

- コミュニケーション・ネットワークの拡充

本格的なWebサービスを開始して2009年度で3年目を迎える。これまでのサービスをベースとして、学生、教育

職員、事務職員を相互に結合させるコミュニケーション・ネットワークの拡充を推進する。まず、携帯電話向けサービスを充実させ利用者にとってさらなる利便性向上を図る。

- 事務システム「要件定義」

Webサービスと連携して稼働している事務システムは、2011年度稼働開始を目指してリプレースを実施する。そのため2009年度は、最も重要なフェーズである諸機能の「要件定義」作業を入念に実行していく。安定稼働を前提とし、教学支援や研究支援、意思決定支援等に寄与できる基幹システムとして、保有する各種情報を有機的に連携させる仕組みの構築を目標とする。